

**組織の概要** (企業)

会社名

株式会社 松本建築デザイン

<b>所在地</b>	〒973-8411 福島県いわき市小島町 3-7-1 TEL:0246-27-6000 FAX:0246-27-6363 E-mail:manan-ie@nifty.com		
<b>ホームページ</b>	homepage3.nifty.com/manan-ie/		
<b>設立年月</b>	1976年 5月		
<b>代表者</b>	松本 隆	<b>担当者</b>	松本 隆
<b>資本金</b>	1000万円	<b>従業員数</b>	3名
<b>沿革</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・1976年～現在 株式会社 松本建築デザイン 一級建築士事務所</li><li>・創業時より究極の省エネを目指した『真南向きの家』づくり</li><li>・1998～2002年、連続5年・特許庁主催の特許流通フェアに出展</li><li>・2002年、ライセンス契約をした(株)ジュン・ホーム(日立市)が『真南向きの家』づくりを開始 <a href="http://www.junhome.co.jp">www.junhome.co.jp</a></li></ul>		
<b>事業概要</b>	主要業務 1.住宅・非住宅の設計・施工・工事監理 2.建築に関するコンサルタント 3.地球環境問題と自然エネルギー利用に関する研究開発		
<b>環境に関する活動実績</b>	地球環境問題と自然エネルギー利用に関する研究開発を行い、現在、特許出願中・特許取得技術で、実際の工事に活用しているもの。 <ol style="list-style-type: none"><li>1. スイング式アンカーボルト『アンカー芯利』</li><li>2. ドットアミーPlan</li><li>3. 相似系建築</li><li>4. 移芯伝芯工法</li><li>5. ツイストマウンテン工法</li></ol> <p>なお、スイング式アンカーボルト『アンカー芯利』についての技術内容は <a href="http://www.trf2003.com">www.trf2003.com</a> にある。</p>		

売上高(14年度)

円

## 政策のテーマ 被災廃棄物の発生抑制に役立つ『スイング式アンカーボルト』

## 政策の分野

- ・ 持続可能な循環型社会の構築
- ・ 地球温暖化の防止

## 政策の手段

- ・ 法律及び国際条約の制定・改正または司法的解決
- ・ 調査研究、技術開発、技術革新

団体名：株式会社 松本建築デザイン

担当者名：松本 隆

## 政策の目的

近い将来、我が国で大地震が起こった場合、多くの建物が全壊あるいは半壊し、その結果多くの家屋自体が莫大な廃棄物と化することは阪神・淡路大震災の状況から見ても自明である。今後、そのような大地震の備えとして当社発明の「スイング式アンカーボルト」を活用することで耐震性が向上し、大地震に対して強い家づくりが可能であり、被災廃棄物の発生抑制に資する。また、その抑制で被災廃棄物の焼却量が減るので、地球温暖化の防止にも資する。

## 背景および現状の問題点

阪神・淡路大震災などで周知のとおり、我が国では地震発生が多く大地震で多くの尊い人命が失われ、しかも建造物が全壊あるいは半壊し相当量の廃棄物が出るので環境に悪い。このことは建築基準法第1条の趣旨に反している。

確かにそのような大地震が起きてから耐震性のある建物・基礎はつくられているが、しかし、耐震性を考慮したアンカーボルト設置技術がほとんど無かったことは問題である。このように技術がほとんど無かったため、アンカーボルトの設置精度の悪さは建設業界において以前から指摘されていた。したがって、東海、東南海、南海地震あるいは将来の未知なる大地震に早く備えるためにアンカーボルト高精度設置技術の普及は急務である。

## 政策の概要

岡部ストラクト株式会社(アンカーボルト製造・販売専門企業)によると地震に強い家づくりのためにアンカーボルト設置技術がいかに重要であるかがよく分かる。なぜなら、同社の調査によれば阪神・淡路大震災において同社開発のアンカーボルト(ベースパック柱脚工法)を活用した建物の被害件数が0であったからである。

アンカーボルト設置技術の悪さは以前から指摘されていたにもかかわらず、その設置工法の改善がほとんど見られていないのが現状である。だから、インターネットで基礎工事クレーム情報を調べると、アンカーボルトのトラブルや「台直し」に関するひどい実態が分かる。

「台直し」とは、コンクリート打設硬化後、傾斜したアンカーボルトを人間の勘で無理やり曲げて適切に設置しようとするのではあるが、実際、「台直し」でアンカーボルトを適切に設置することは困難なことであり、したがって、建物の耐震性が著しく低下する。それに対して、当社開発の「スイング式アンカーボルト」が活用されると、そのような「台直し」をせずにアンカーボルトを適切に設置することが可能である。なぜなら、当社の特許技術でコンクリート打設直後、アンカーボルト位置測定と修正を行うため高精度設置が実現できるからである。

当社では、以上のようなことを踏まえてインターネットや営業を通じて建築業界の大企業・中小企業に当社開発の「スイング式アンカーボルト」の活用を働きかけ、耐震性を考慮したアンカーボルト設置技術の普及を早急に努める。

〔基礎工事クレーム情報：文字検索〕\*これから建築計画のある方はぜひ御覧下さい。

[アンカーボルト](#) [トラブル](#)、[配筋](#) [トラブル](#)、[遣り方](#)、[基礎工事](#) [トラブル](#)、[アンカーボルト](#) [台直し](#)、[鉄筋](#) [台直し](#)、[基礎工事](#) [墨だし](#)、[基礎工事](#) [墨出し](#)

### 政策の実施方法と全体の仕組み

耐震性を考慮したアンカーボルト設置技術の普及は急務であるので、インターネットや営業を通じて建築業界の大企業・中小企業に当社開発の「スイング式アンカーボルト」の活用を働きかける。なお、通常、アンカーボルトが使用されているものには住宅・非住宅・鉄塔・土木・貯蔵施設・遊戯施設等がある。そのことを踏まえるとアンカーボルトの需要が多いことが予想できる。

全国規模で建築関係の大企業・中小企業によって当社開発の「スイング式アンカーボルト」が活用されると地震に強い建築物を普及させることができる。そうすることで、東海、東南海、南海地震あるいは将来の未知なる大地震対策となり、人命を守るのみならず住宅の全壊棟数を減少させ、被災廃棄物の発生抑制につながることを期待される。

その他、全国からインターネットで後述の にある当社の『アンカーボルト設置診断』を受けてもらう。その診断結果により他社のアンカーボルト設置精度の実際を知ってもらうことで当社開発の「スイング式アンカーボルト」の活用を働きかける。今まで客観的にアンカーボルトの設置精度に対して確認する指標はなかった。当社の『アンカーボルト設置診断』の結果を偏差値化することで、技術レベルが客観的に判断できる。

### 政策の実施主体（提携・協力主体など）

前回、平成14年度提言の“持続可能な社会づくり5000万戸、50年プロジェクト（5000万戸住宅の太陽エネルギー超高度利用インフラ50年計画）”に引き続き、日本大学工学部建築学科・若井正一教授（工学博士：東京大学）

### 政策の実施により期待される効果

東海、東南海、南海地震は80～90%の確率で今世紀半ばまでに発生が予想されている。そのような大地震が起きた場合、東海、東南海両地震による住宅全壊数がいずれも阪神・淡路大震災の約2倍の200,000棟近くにのぼることが、損害保険会社44社で作成する「損害保険料率算出機構」の試算で分かった。一方、中央防災会議の調査結果によれば東海地震が起きたときの建物の全壊棟数は最悪の場合、約463,000棟で、その内の強い揺れでの全壊棟数は約170,000棟であると想定されている。ちなみに、阪神・淡路大震災による全壊家屋数は104,900棟と発表され(出典：平成9年12月24日自治省消防庁災害対策本部・兵庫県南部地震の被害状況〔101報〕)、その大地震で発生したガレキ量は住宅・建築物系で約1,450万トン、公共・公益系で550万トン、併せて2,000万トンと推計され、県下の年間ごみ排出量の約9年分に相当する莫大な数値となった。

したがって、阪神・淡路大震災の実態を踏まえると東海、東南海、南海地震が起きた場合は少なくとも阪神・淡路大震災の数倍以上の被災廃棄物排出量になることが予想される。

そのような大地震またはその類に対して当社開発の「スイング式アンカーボルト」を活用すれば耐震性が向上するので、前述の阪神・淡路大震災における被害件数が0の例からいっても住宅の全壊棟数は減り、被災廃棄物の発生抑制が期待される。また、その抑制によって被災廃棄物の焼却量が減るので、地球温暖化の防止にも期待される。

## その他・特記事項

耐震性向上のための『アンカーボルト設置診断』  
略称 ~ 『はなたば100点』テスト~

アンカーボルト NO. / 総数 本					得点計	点			
最高得点	略称	測定・判定内容	測定値・式			各得失点			
25	は	幅方向	方位	誤差	mm	点			
25	な	長さ方向	方位	誤差	mm	点			
25	た	高さ方向	上下	誤差	mm	点			
25	ば	バランス度 (幅・長さ・高さ方向)	a 個	c 個	e 個	点			
			b 個	d 個	+ +				
0	100点	100点をとる条件 は傾き0°設置	方位	傾き	度	点			
			最小コンクリートかぶり厚さ		mm				
〔幅・長さ・高さ各方向〕での配点									
判定	a		b		c	d	e		
誤差	0 1 2 3 4 5		6 7 8 9 10		11.12.13.14.15	16 ~ 20	21 ~ 25		
点数	25.24.23.22.21.20		18.16.14.12.10		8 6 4 2 0	- 5	- 10		
〔バランス度〕の配点									
a : 3個	25点	b : 3個	18点	c : 3個	12点	d : 3個	- 6点	e : 3個	- 16点
a : 2個	16点	b : 2個	12点	c : 2個	8点	d : 2個	- 2点	e : 2個	- 8点
a : 1個	8点	b : 1個	6点	c : 1個	4点	d : 1個	2点	e : 1個	0点
〔100点をとる条件は傾き0°設置〕の配点									
1°傾き	- 2点	2°傾き	- 5点	3°傾き	- 9点	4°傾き	- 14点	5°傾き	- 20点

なお、点数の優劣も重要であるが、まずゼネコン・住宅メーカー・工務店は耐震強度を考慮に入れた責任ある自社用のアンカーボルト許容誤差基準を明示しなければならない。